

ガバナー月信 Governor's Monthly Letter

VOL.
11
2023年5月号

Contents

ガバナーメッセージ	2
「青少年奉仕月間」に寄せて	3
IM報告	4-5
特別コラム	6
新会員・物故会員紹介	7
次年度地区大会予告	8
会員増減・出席率	8

「ミャンマーの医療事情」

1月14日、ミャンマーの最大都市ヤンゴンでIT企業のミャンマー支社長が強盗に襲われ胸を刺されるという事件が起きました。日本本社の社長さんとは面識があり、本人が大変不安がっているの、急遽ミャンマーに行ってほしいと依頼され、行ってまいりました。

ミャンマーと日本は時差が2時間半です。気候は年間を通して最高気温が37度、最低気温が18度程という常夏の国です。

ミャンマーの歴史はとても複雑で、イギリスに支配されていた時代もあり、第2次世界大戦で日本兵が約20万人以上も亡くなった場所でもあります。その時、多くの日本人がその当時のビルマ人に助けられたそうです。

アウンサンソーチー氏のもと民主化されますが、軍のクーデターにより軍の支配下になるという繰り返しで、情勢が不安定なことにより、医療の発展も乏しく、医療設備も人材も不足しています。公的医療保険制度も整っていないミャンマーは、医療費は高額で貧しい農村地域の人々は医療を受けられません。新生児・乳幼児死亡率は世界で50位に入るほど高く、約22人のうち1人の子供が5歳の誕生日を迎えることができずに亡くなっています。

日本であれば救えるはずの命であっても、生まれた国が違うだけで運命は大きく変わります。

現在は2021年の国軍のクーデターにより、国の全ての権力が軍帰属になっており、その影響で、医療者のボイコットが起き、国立病院をはじめとする医療機関が十分に機能していない状態が続いています。

国際ロータリー
第2710地区
2020-23年度
がん予防推進委員会委員

井上 文之

福山RC



今回のミャンマー滞在中、私は在ミャンマー日本国大使館参事官兼医務官と、特定非営利活動法人ジャパンハートの看護師の方と行動を共にし、ヤンゴン総合病院の担当医およびヤンゴン総合病院には胸部外科医がいなかったため他の病院から応援の胸部外科医とdiscussionしました。

ジャパンハートは吉岡英人医師が「医療の届かない所へ医療を届ける」という思いで設立された団体です。

刺された患者さんはすでに胸腔ドレーンをいれられておりました。胸腔ドレーンの先は日本で施行する3瓶法ではなく、単に水を入れた瓶に、自然落下圧のみの吸引の仕方、中に入れる水も滅菌水とかでなく、町で売っている飲料水のペットボトルの水を入れていました。吸引圧が自然落下圧のみで弱く、気胸は持続しており、受傷肺は拡張不十分で無気肺になっていました。しかし、この無気肺で空気漏れと出血が止まっているように思われました。現地医師との討議を呼吸器専門医としての解説を交えながら伝えたことで、患者さんはとても安心されたようでした。

ミャンマー最大都市ヤンゴンといっても医療レベルは低く、最近では停電も酷く、電気が1日6時間程度しか来ない環境でした。しかし、一人の日本人を助けるために、日本大使館の医務官をはじめ、ジャパンハートの方々、ミャンマーにいる多くの日本人ボランティアが一同に集まってきていることに感激しました。そして同時にさすが日本人だと感じ、また、世界各地でそういったボランティア活動をしている日本人がいることを誇りに思いました。